

平成 26 年度事業報告書

東京都目黒区下目黒 4 丁目 1 番 1 号

公益財団法人 目黒寄生虫館

はじめに

目黒寄生虫館は、その設立の趣旨に基づき、寄生虫学の研究を推進し学問の発展を目指すため公益目的の事業を継続している。さらに当法人は公益財団法人として、民による公益の増進を使命とすることから、寄生虫学の啓発のため博物館の充実と拡充を図り、生涯学習の側面からも社会貢献に努めている。このような認識のもと、法令順守に則り公正かつ適切な事業活動を行った。当年度に実施された各事業について以下の通り報告する。

研究等事業(定款第4条第1号事業)

当法人における研究等事業は、寄生虫の分類学および形態学に関する研究活動を主体とする。日本寄生虫学会をはじめ諸学会において研究報告・論文発表等を行っている。旧法人下より長年に渡り、目黒区教育委員会からの委託を受け実施している目黒区内の学校等の寄生虫卵調査は、目黒区という地域に根差した社会貢献活動でもある。さらには、日頃の研究成果や知識を基盤として他機関や広く一般に向けて助言・指導などを行っており、もって寄生虫学の発展に寄与している。

I. 寄生虫学に関する研究・調査活動

1. 寄生虫学に関する研究

A. 論文

1. 小川和夫ら

- 1) 繊毛虫 *Chilodonella hexasticha* の寄生による野生ハスの死亡事例.
魚病研究, 49 (2), 49-52.

琵琶湖に流入する河川でコイ科魚のハスが繊毛虫 *Chilodonella hexasticha* の寄生によって死亡したことを明らかにした。本種の野生魚への寄生は日本初報告。

- 2) Efficacy of high water temperature treatment of myxosporean emaciation disease caused by *Enteromyxum leei* (Myxozoa).

Fish Pathology, 49 (3), 137-140.

粘液胞子虫 *Enteromyxum leei* に起因するやせ病について、自然感染したヤイトハタと実験感染させたクマノミは 30℃に置くことによって治癒することを確認した。

- 3) 国内で内水面養殖されたサケ科魚類における日本海裂頭条虫プレロセルコイドおよび *Metagonimus* 吸虫メタセルカリアの寄生状況.

魚病研究, 49 (4), 198-201.

国内で淡水飼育されたサケ科魚には日本海裂頭条虫と *Metagonimus* 属吸虫の寄生が見られないことを明らかにした。

- 4) First description of male *Philometra thaiensis* Moravec, Fiala et Dyková, 2004 (Nematoda: Philometridae) from the body cavity of the eyespot pufferfish *Tetraodon biocellatus* Tirant,

and evolutionary relationships of this species with other dracunculoids as inferred from SSU rRNA gene sequences.

Helminthologia, 51 (3), 236-245.

東南アジアから輸入された淡水フグの一種 *Tetraodon biocellatus* の体腔に寄生していた線虫 *Philometra thaiensis* の雄の形態を初記載した。また、18S rDNA の塩基配列から、他の線虫との系統関係を論議した。

5) Diseases caused by Platyhelminthes (Monogenea, Digenea, Cestoda). In “Parasites, fisheries and mariculture” (ed. by J. Timi and K. MacKenzie).

Parasitology, Special Issue, 142, 178-195.

主として日本の海産養殖魚の蠕虫寄生による疾病について総説にまとめた。

2. 巖城 隆ら

1) Phylogenetic characterisation of *Taenia* tapeworms in spotted hyenas and reconsideration of the “Out of Africa” hypothesis of *Taenia* in humans.

International Journal for Parasitology, 44(8), 533-541.

エチオピアのハイエナから採集された *Taenia* 属条虫について分子系統解析および形態学的観察を行い、*Taenia crocutae* のほか未記載の 2 新種の存在が示唆された。ヒト寄生性 *Taenia* 属を含めた分子系統解析から、これらの *Taenia* 属のアフリカ由来説について考察した。

2) *Huffmanella hamo* sp. n. (Nematoda: Trichosomoididae: Huffmanellinae) from the dagger-tooth pike conger *Muraenesox cinereus* off Japan.

Folia Parasitologica (Praha), 61(3), 267-271.

西日本で採集されたハモの筋肉から検出された虫卵の特徴に基づき、線虫 *Huffmanella hamo* を新種記載した。この属はウナギ目魚類類から初めて発見された。

B. 学会発表

1. 小川和夫ら

1) Molecular phylogeny of Phyllobothriidae (Cestoda: Tetraphylliidea).

第 13 回世界寄生虫学会議、メキシコシティー、平成 26 年 8 月。

フィロボツリウム科条虫の遺伝子系統について口頭発表した。

2) Monogenean and aporocotylid digenean infections of cultured marine fishes.

第 13 回世界寄生虫学会議、メキシコシティー、平成 26 年 8 月。

海産養殖魚に有害な単生類と住血吸虫類の寄生について口頭発表した。

3) クロマグロ養殖生簀周辺のフサゴカイに寄生していた住血吸虫(予報).

平成 26 年度日本魚病学会春季大会、東京、平成 27 年 3 月。

クロマグロ養殖場で採集されたフサゴカイ類に寄生していた吸虫のスポロシストとセルカリアをクロマグロの住血吸虫 *Cardicola orientalis* と特定したことについて口頭発表した。

4) オーストラリア産ウナギに寄生する 3 種のシュードダクチロギルス属単生類.

平成 26 年度日本魚病学会春季大会、東京、平成 27 年 3 月。

オーストラリア産の 2 種のウナギに寄生するシュードダクチロギルス 3 種についてポスター発表した。

5) 日本の海水魚に寄生する住血吸虫.

平成 26 年度日本寄生虫学会大会、東京、平成 27 年 3 月。

日本の海産魚に寄生する住血吸虫の研究の現状について口頭発表した。

6) トラフグに寄生する住血吸虫の形態による分類.

平成 26 年度日本寄生虫学会大会、東京、平成 27 年 3 月。

トラフグに寄生する住血吸虫3種の形態による分類について口頭発表した。

2. 巖城 隆ら

1) 水族館のセイウチとアゴヒゲアザラシにみられたハイダニ *Orthohalarachne attenuata* および *Halarachne halichoeri* の感染例.

第 157 回日本獣医学会学術集会、札幌、平成 26 年 9 月

水族館のセイウチとアゴヒゲアザラシから検出されたハイダニ類 2 種について口頭発表した。

2) ハモ *Muraenesox cinereus* に寄生する線虫 *Huffmanella hamo* sp. n. について.

第 84 回日本寄生虫学会大会、三鷹、平成 27 年 3 月

異物同定依頼されたハモの筋肉の黒色病変から検出され、新種記載された線虫 *Huffmanella hamo* について口頭発表した。

C. 研究助成

1. (独)日本学術振興会 科学研究費補助金 平成 25～27 年度 基盤研究(B)

「クロマグロ種苗生産過程で発生する寄生虫病の制御」研究代表者(小川和夫)

種苗生産過程で問題となる粘液胞子虫 *Kudoa* と住血吸虫 *Cardicola* spp. に関し、以下の結果を得た。PCR や顕微鏡によって脳寄生の *Kudoa yasunagai* と *K. prunusi*、心臓寄生の *K. shiomitsui*、筋肉寄生の *K. hexapunctata* の検出を試みた結果、魚への感染時期やシスト形成までの期間は、クドアの種により異なることが示唆された。陸上飼育のヒラマサ稚魚の *Kudoa yasunagai* 寄生をモデルとした系で、陸上飼育時に UV 殺菌水を用いることで、海面生け簀へ移動後の発症率が軽減されることが分かった。また、生け簀移動後の定期的調査により、クロマグロへの感染時期を推定した。住血吸虫については、養殖場で採集されたフサゴカイ類 *Nicolea gracilibranchis* と *Neoamphitrite* sp. からスポロシストとセルカリアを発見した。遺伝子解析によって、それぞれ *Cardicola orientalis* と *C. forsteri* であることが示された。これら 2 種のフサゴカイを中間宿主と特定したことにより、2 種の住血吸虫の生活環を解明した。*C. forsteri* は日本初報告となる。

2. (独)日本学術振興会 学術研究助成基金助成金 平成 25～27 年度 基盤研究(C)

「ハダムシ被害軽減のための新しい防除技術の開発」

研究代表者 白樫正[近畿大学水産研究所] - 研究分担者(小川和夫)

ブリ類養殖で問題となるハダムシ *Neobenedenia girellae* に関し、以下の結果を得た。1) ハダムシ 1 虫体を魚に移植するという手法を開発した結果、複数寄生の場合と産卵日周リズムに違いはなく、寄生数によって産卵リズムは大きく影響されないことが分かった。2) 回流水槽を用いた実験で、ハダムシのふ化幼生が存在すれば潮流が速い海域でも寄生が起こることが分かった。3) 生簀網への虫卵纏着率と鉛直分布を調べたところ、多い時には生簀網 4 側面に 1 日 1000 万個以上の虫卵が蓄積し、その 50～80% 以上は表層付近に集中していることが明らかとなった。以上の知見によって、虫卵の効率的な除去法の開発など、ハダムシ対策に繋がる知見が得られた。

3. (独)日本学術振興会 科学研究費補助金 平成 24～26 年度 基盤研究(B)

「日本住血吸虫病の抑制に関する歴史的経験の整理と国際保健への提言」

研究代表者 飯島渉[青山学院大学文学部] - 研究分担者(小川和夫)

新潟大学・琉球大学の寄生虫学教室資料である「大鶴正満資料」を目黒寄生虫館に移管し、アーカイブズ学的な視点による保存措置、公開に向けての概要調査等を行った。

2. 寄生虫データベースの整理

当法人の公式サイト上ではデータベース「目黒寄生虫館所蔵タイプ標本一覧」を随時更新している。平成 27 年 3 月時点における収録数は 3,995 点 (1,209 種) で、前年度と比べて 26 点 (6 種) が追加された。データベース「日本産哺乳類の寄生蠕虫類リスト」「鳥類の寄生蠕虫類リスト」の今年度の収録数はそれぞれ 4,033 件、2,053 件である。

3. 目黒区内の砂場における寄生虫卵調査

目黒区教育委員会の委託により行われている調査で、平成 26 年度は目黒区立の小学校 3 校とこども園 2 園が対象であった。平成 26 年 8 月 6 日と平成 27 年 2 月 4 日の 2 回、各施設の砂場とその付近から砂を採取し、寄生虫卵の有無を調査した。今回の調査では、夏季・冬季とも砂場内側および周囲の砂、砂場や校庭・園庭周囲の猫の糞便から寄生虫卵と考えられるものは検出されなかった。日常的に子供たちが利用する砂場や、校庭・園庭の周囲に小動物の糞便が発見されたことから、これらによる汚染について注意や手洗いの励行などの留意事項を報告書にまとめ、教育委員会へ提出した。(小川和夫、巖城隆)

II. 学術資料の収集および管理

1. 学術資料の収集・貸出等

寄贈標本登録	15 件	3,754 点 (うち福岡大学 波部重久先生より 3,684 点)
外部への研究用標本貸出	6 件	57 点

2. 学術資料の整理

当法人では図書・逐次刊行物の収集を継続し、資料の拡充を図っている。蔵書数は微増となり、平成 27 年 3 月末時点において 5,000 冊の目録が整備された。収集された図書文献は博物館資料として登録し、データベース化を図っている。

これら文献等の資料貸出は 2 件 35 点であった。

1) 図書・逐次刊行物

当年度中に 58 冊の図書を新たに登録した。これらは購入もしくは研究者や他の博物館からの寄贈によるものである。逐次刊行物についても同様に管理され、新規登録された学術雑誌の類はいずれも書庫に保管されている。当年度中に所蔵した図書の一例を以下に示す。

動物看護学：各論；改訂新版(インターズー、2014)

Marine Fish Parasitology in Hawaii (Westarp & Partner Digitaldruck, 2014)

寄生虫学研究：材料と方法；2014 年版(三恵社、2014)

プラナリアの形態分化；基礎から遺伝子まで(共立出版、1998)

Human ecology and infectious diseases (Academic Press, 1983)

2) 論文別刷等の整備と電子情報化

文献室に保管する論文別刷のデータベース化を引き続き進めている。今年度の新着寄贈別刷のデータベース登録数は1,718件で、平成27年3月時点における論文別刷等のデータベース総収録数は41,300件であった。

Ⅲ. 寄生虫に関する助言および指導

博物館来館者による質問は89件、電話あるいはFAXで受けた質問等はそれぞれ38件、6件であった。企業・一般から依頼された寄生虫同定・異物鑑定は4件であった。そのほか、大学の卒業論文(1件)、修士論文(1件)の作成に関して指導・助言を行なった。

普及啓発事業(定款第4条第2号事業)

I. 「目黒寄生虫館」の管理運営事業

当法人の所有する建物は1階と2階に常設展示室を設けており、設立以来無料開館を継続しているが、来館者による寄付金は年間350万円を超え、運営に際し貴重な一助となっている。一般寄付金額は年々増加の傾向にあり、当法人の事業活動に対する認知と理解はますます浸透しているといえる。来館者の期待に応えるよう、今年も活発な啓発活動が実施された。

1. 開館日数および来館者数

平成26年度の開館日数は307日であった。来館者総数は約61,500名であり、1日あたり約200名の換算となる。これは前年度と比べて7%の増加である。

全来館者のうち、事前申し込みを受けた見学者数は2,588名にのぼった。予約をせずに来館する団体もあり、実態を正確に把握することは難しいが、前年度より増加傾向にある。大学や専門学校が授業に利用するだけでなく、修学旅行の班別行動や生涯学習活動の地域散歩の一環で訪れるなど、団体や目的も様々である。

2. 展示室パネルの整備

展示室エントランスならびに1階の常設展示を一部更新した。以前より故障していた旧式の電動式パネル(「寄生虫はどこにすむか?」)を撤去し、そこに「寄生虫の多様性」のパネルを移動した。エントランスには沿革や創設者のレリーフなどを設置したほか、館内見取り図を示したリーフレットも新たに並べた。展示ケース内には新たにデジタルフォトフレームを1台置き、見学者からの要望が多かったロイコクロリジウムの動画を流している。

3. 取材対応・画像提供

毎年様々なマスコミから取材や誌面掲載の依頼を受け、年間で 50 件の申請があった。このうち学術的意義が大きい媒体など 31 件について取材対応または画像提供を行った。内訳はテレビ 4 件、新聞 4 件、ウェブサイト 7 件、書籍・雑誌類 16 件であった。申請数は前年度報告と比べ 10 件ほど減ったものの、応じた取材件数の比率はほぼ同じといえる。いずれも、単純な「無料スポット」としての紹介ではなく、来館時の募金が運営の一助となることが広く伝えられており、博物館の運営実態の周知にも有効であった。

II. 教育普及活動事業

1. 特別展示

平成 26 年 4 月 26 日から 9 月 28 日まで「特別展 ヤマビル」を開催した。ヤマビル被害が増えた背景やそれらへの対処法についてパネルとリーフレットで解説し、様々なヒルの標本を展示した。また、各週末にはヤマビルの生体展示と、職員による解説会も行った。近年では被害が増えていることから来館者の興味をひくテーマであった。なお本展示に際しては、ヤマビル研究会の谷重和氏による監修を得た。

2. イベント

平成 26 年 7 月 27 日、夏休み体験学習会「ヤマビルってどんな生き物なの？」を開催した。前述の谷重和氏を講師にむかえ、忌避剤やピンポン玉などを使った様々な実験を通じてヤマビルの生態を知るためのプログラムであった。また、当日は開館時刻を 1 時間早めて館長による館内解説も実施した。今回のユニークなプログラムは参加者には新鮮に捉えられたようである。

3. 写真展

平成 26 年 9 月 20 日より、写真展「ダイバーがとらえた寄生虫」を開催した。写真愛好家のダイバーが海中で撮影した魚介類の寄生虫写真の展覧会であり、写真の展示は初の企画であった。実際の寄生虫の色や魚介類に寄生している様子などがわかりやすいと好評であったため、年度末まで開催を続けた。これらの展示には、重城のり子氏ほか 6 名の協力を得た。

4. 講演会

職員による講演等の依頼があった場合には、可能な範囲で受け入れている。講演等の招聘は法人事業の紹介の場を館外へと拡充し、寄生虫学に対する理解を深めることにより利用者の裾野を広げるものと位置づけられる。当年度中に実施された主な会を以下に挙げる。

平成 26 年 9 月 5 日	千葉県保健所「クドアに関する講演会」(小川和夫)
平成 26 年 10 月 10 日	第 14 回日伊科学技術宮崎国際会議「人と自然と病原体」(小川和夫)
平成 26 年 11 月 7 日	全国市場食品衛生検査所協議会「研修会 寄生虫と食品衛生」(巖城隆)
平成 26 年 11 月 27 日	札幌消費者協会「食と健康を考える会 学習会」(巖城隆)
平成 27 年 2 月 26～27 日	ベターホーム協会「セミナー 食品の寄生虫」(巖城隆)

5. 実習生受入

当法人の運営する博物館は博物館法第 2 条に定義される登録博物館である。そのため、博物館法施行規則第 2 条に基づき、博物館学芸員資格取得のための実習生を例年受け入れている。実習の目的は日常

的な業務や、展示物の製作や標本整理などに関わることで博物館運営への理解を深めることにある。12 日間の業務内容は多岐にわたり、単調なスケジュールにならないよう職員による工夫がなされている。ときには職員の気づかない視点からの学生の指摘があるなど、当館側のメリットも少なくない。学生個人のスキルを活かし、適材適所の実習内容を目指している。当年度は以下の 11 大学、計 13 名が参加した。

明治大学 東京海洋大学 日本大学 東京工芸大学 北里大学 お茶の水女子大学
多摩美術大学 立教大学 武蔵野美術大学 東京農業大学 帝京科学大学（受入順）

Ⅲ. 寄生虫学への理解を深める資料の刊行・製作事業

1. 刊行物の製作と頒布

広報誌「むしはむしでもはらのむし通信」は平成 26 年 12 月 20 日に第 194 号(B5 版 カラー16 ページ)を刊行した。巻頭の読み物は谷重和氏執筆による「ヤマビルはどんな生き物？ー森林の荒廃・激増する野生生物とヤマビルとの関係ー」を掲載した。その他、常設展示の更新情報や特別展示の実施記録など、事業の実施状況の周知も兼ねた刊行物となっている。発行部数 600 部のうち約 150 部を関係機関・博物館等に配布し、また他館との資料交換に応じた。一般の希望者には約 50 部を年度中に販売し、残部は次年度以降も引き続き頒布する。一方、平成 21 年に刊行した 189 号は期中に完売した。販売中の 191 号からのバックナンバーを含めた頒布数は約 340 部であった。

また、当年度も展示ガイドブック和文版/英文版(B5 版 カラー16 ページ)の有償頒布を行った。小ロットでの印刷を続けながら、内容の見直しを常に行っている。年間頒布数は 1,550 部で、そのうち 255 部が英文版であった。販売冊数は昨年度とほぼ同数である。

2. 教育用標本の頒布

昭和 50 年代に日本寄生虫学会からの委託により発足した「教育標本サプライセンター」を前身として、医学系の大学や教育機関等を対象に寄生虫標本を販売している。標本は多くの学生たちが寄生虫学を理解するための一助となっている。平成 26 年度は前年の約 2 倍にのぼる 43 機関から依頼を受けた。販売総数も大きく伸び、寄生虫卵液浸標本 226 本、スライド標本(塗抹染色・組織薄切等)1,027 枚であった。その一方で、在庫が無くなり販売を中止した標本も複数ある。そこで標本の充実を図るため、日本寄生虫学会など関連学会に呼びかけ、ネットワークの構築を開始した。多くの学生にとって寄生虫を観察する機会が失われないよう、今後も標本の作製および在庫の確保に努める。

Ⅳ. 目黒寄生虫館ミュージアムショップの運営事業

展示室 2 階に併設されたミュージアムショップにおいて、前項の刊行物の販売、ならびに寄生虫学関連書籍やオリジナルグッズの委託販売を継続した。前年度に製作工場の倒産により販売中止となった寄生虫の封入ストラップについては、同様の加工ができる業者が見つかったため販売を再開した。魚類寄生虫の注意喚起にもつながるアイテムであり、来館者の興味をひいている。また、商品の切り替えに伴い、フタゴムシをモチーフにしたマグネットと付箋を製作した。フタゴムシは館のロゴマークにもなっており、蝶にも似た姿形は来館者から喜ばれる記念品となっている。

また、書籍では当法人が監修した「寄生蟲図鑑:ふしぎな世界の住人たち(飛鳥新社)」は発売から 1 年を

超えてもなお人気が根強い。造本装幀コンクールで日本書籍出版協会理事長賞を受賞し、話題性のある作品となっている。また、当法人が画像提供した「寄生虫ビジュアル図鑑(誠文堂新光社)」も新たに刊行された。書籍の年間販売冊数は合計で 930 冊を超え、それだけ多くの来館者に寄生虫学の興味を引き出していることが窺える。見学後も書籍を通して学習を続けることで、館内で得られた知識は持続される。広く一般に寄生虫学の裾野を広げることに有効に作用するといえよう。

その他実施事項等

I. 理事会・評議員会等の開催

1) 平成 26 年度第 1 回定時理事会開催

開催日時 平成 26 年 6 月 8 日(日) 午後 1 時～3 時 30 分

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

出席理事数 7 名 (総数 8 名) 出席監事数 2 名 (総数 2 名)

報告事項 理事長・常務理事による職務の執行状況の報告
下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 平成 25 年度事業報告書案の承認の件

第 2 号議案 平成 25 年度収支決算書案の承認の件

第 3 号議案 内閣府への定期提出書類の承認の件

第 4 号議案 公益財団法人目黒寄生虫館 研究活動に係る不正防止に関する規程の承認の件

第 5 号議案 特定費用準備資金の繰入れの承認の件

第 6 号議案 定時評議員会の日時及び目的である事項等の件

2) 平成 26 年度第 1 回定時評議員会開催

開催日時 平成 26 年 6 月 22 日(日) 午後 1 時～3 時 30 分

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

出席評議員数 7 名 (総数 8 名)

他 出席役員 5 名 (理事長・常務理事 2 名・監事 2 名)

報告事項 平成 26 年度第 1 回定時理事会の開催報告
下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 平成 25 年度事業報告書案の承認の件

第 2 号議案 平成 25 年度収支決算書案の承認の件

第 3 号議案 改選にともなう理事の選任の件

3) 平成 26 年度第 1 回臨時理事会(みなし決議)

開催があったものとみなされた日時 平成 26 年 6 月 22 日(日)

決議があったものとみなされた内容

第 1 号議案 理事長および常務理事の任期満了に伴う改選の件

4) 平成 26 年度第 2 回臨時理事会(みなし決議)

開催があったものとみなされた日時 平成 26 年 12 月 18 日(木)

決議があったものとみなされた内容

第 1 号議案 特定費用準備資金の繰入の承認の件

第 2 号議案 公益財団法人目黒寄生虫館 平成 26 年度補正収支予算書(資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類を含む)の承認の件

5) 平成 26 年度第 2 回定時理事会開催

開催日時 平成 27 年 3 月 15 日(日) 午前 11 時～12 時

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

出席理事数 7 名(総数 7 名) 出席監事数 2 名(総数 2 名)

報告事項 理事長・常務理事による職務の執行状況の報告

下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 公益財団法人目黒寄生虫館平成 27 年度事業計画書及び収支予算書の件

第 2 号議案 研究活動に係る不正防止に関する規程の改正案の承認の件

II. 省庁および自治体等への届出事項、他

平成 26 年

4 月 9 日 「国と特に密接な関係がある公益法人への該当性について」報告書 総務省

5 月 30 日 確定申告書(法人税等) 目黒税務署

6 月 25 日 平成 25 年度事業報告書・収支決算書等の届出書 内閣府

7 月 4 日 理事及び代表理事の変更登記申請書 東京法務局

8 月 20 日 平成 26 年度「砂場の寄生虫卵調査」中間報告書 目黒区教育委員会

9 月 26 日 体制整備等自己評価チェックリスト 文部科学省

平成 27 年

2 月 20 日 休日労働・時間外労働に関する協定書 品川労働基準監督署

2 月 24 日 平成 26 年度「砂場の寄生虫卵調査」成績報告書 目黒区教育委員会

3 月 18 日 平成 27 年度事業計画書および収支予算書の届出 内閣府

その他、各種調査書類等への回答 内閣府等

III. その他の事項

1. ウェブサイト

公式サイト(<http://www.kiseichu.org/>)では目黒寄生虫館からの情報発信、すなわち事業内容の紹介や開館案内等を行っている。定款や登記事項に記載される法人の公告の場でもあるため、更新を怠らぬよう情報公開に努めている。期中に改正承認された補正予算書案や不正防止に関する規程などについても、その都度 PDF ファイルを作成し、サイトの更新に努めた。

2. 博物館に隣接する自動販売機について、雑収入を計上した。

附属明細書

平成 26 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。